

# アルコール健康障害基本法対策推進啓発研修

一般社団法人 日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会

〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5-3-1

独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター  
医療福祉相談室

## 助成事業の概要

飲酒問題を社会全体が取り組むべき課題として2014年に施行されたアルコール健康障害対策基本法の目的達成のために、アウトリーチする専門職としてのソーシャルワーカーが早期発見、早期介入、連携の方法を身につけ、支援力が向上することを目標として、札幌（2017年8月26～27日）、東京（2017年10月7～8日）、大阪（2018年2月3～4日）、福岡（2018年3月10～11日）の4か所で研修を行った。研修は2日間で、アルコール問題についての医学講義、アルコール関連問題とソーシャルワーク、社会資源と連携、家族相談などの講義や、アルコール依存症の回復者の体験談やグループワークなどの演習で構成されている。参加者数は217名であったが、応募者多数のためお断りした地域もあった。

広報については、ソーシャルワーカーの職能団体である日本ソーシャルワーカー連盟の4団体の後援をいただき、5万枚のチラシを会員に配り、各団体のホームページで案内していただいた。本研修は日本医療社会福祉協会の認定医療社会福祉士認定ポイント15ポイント）、認定社会福祉士研修認証（地域社会・多文化分野1単位）の対象となった。

## 事業の成果

### 1 貴重な研修機会

これまであまり研修機会がなかったソーシャルワーカーから、アルコール関連問題への気づきや

発見、アルコール関連問題の理解や関わり方などについて、多くの示唆を得られ、今後も職場で生かしていきたいという感想をいただいた。特にアルコール依存症からの回復者である自助グループの断酒会やAAの方々の体験談を初めて聞く参加者も多く、それまでは援助のやり甲斐の無い人たちで自業自得と考えていたが、回復できる病気という実感を得て、感銘を受けたという感想を多くいただいた。

### 2 多様な参加者

研修参加者は同じソーシャルワーカーという職種ではあるが、医療・福祉・保健・行政・司法など様々な分野から参加していた。働く領域は異なるが、アルコール関連問題は病気・貧困・家庭不和・暴力・虐待など様々な現れ方をするため、参加者同士や回復者との分かち合いの中で、アルコール関連問題の実態を多面的に実感でき、多くの気づきが得られた。また、講師や参加者の実践例、回復者の体験談から、今まで得ることができなかった、どのように関わればよいかというヒントを得たという感想もいただいた。

### 3 アンケートによる評価

研修参加者にはアンケートをお願いし、評価をしていただいた。回収率も高く、研修内容への評価も概ね高評価を得た。「現場で依存症の支援に困ったり、悩むこと」と「感想」の自由記載欄には通常の研修よりも多くの記載があった。

### 4 ソーシャルワークの原点

研修参加者の中にはかなり遠方からの参加もあり、周囲に専門医療機関や自助グループなど社会資源に乏しい地域で働いているという声も聞かれ

た。それでも自らが社会資源となり、乏しい社会資源を効果的につなげて活用し、さらに社会資源を作り上げるというソーシャルワークの原点に立ち返ることができたという声があった。

## ■ 成果の広報・公表

今回の助成をいただく前年度（2016年度）分ではあるが、研修アンケートに基づき、本研修の講師である東海大学准教授の稗田里香が平成29年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会・第39回日本アルコール関連問題学会のポスターセッションにおいて「社会福祉現場に潜在するアルコール関連問題とソーシャルワーク実践の課題－「依存症の支援に困ったり、悩むこと」に焦点を当て」と題した発表を行っている。今年度も何らかの事業成果の発表を行いたいと考えており、現時点では、今年（2018年）11月に山形県天童市で開催される、主催団体である当日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会全国研究大会の分科会において報告と研修参加者の話題提供を企画している。

稗田准教授は国のアルコール健康障害対策基本法関係者会議の委員であり、この研修で得られソーシャルワーカーの意見に基づいて発言をし、現場のソーシャルワーカーの声を国に届けている。

後援していただいた日本ソーシャルワーカー連盟にも報告書を提出する予定である。

## ■ 今後の展開

この研修は同内容で3年目も継続していく予定である。平成30年度予算として、厚生労働省が依存症民間団体支援として、「依存症者や家族等を対象とした相談支援や普及啓発等に全国規模で取り組む民間団体の支援を行う」ための助成金1,

800万円の予算案を提出しているもので、申し込む予定であるが、助成金の有無にかかわらず、初年度（平成28年度）の実施回数である2回以上は、研修を行う予定である。

さらに、この研修受講者のアンケートには事例検討やロールプレイなどのアドバンスコースを望む声をいただいた。今回の研修修了者向けに上級の研修を新設するのが理想的ではあるが、当面はすでに活動をしている当協会の全国研究大会、全国研修、各支部での研修や例会などを案内している。

また、折に触れて各分野のソーシャルワーカーに向けて、アルコール関連問題の重要性や支援の方法、アルコール依存症の回復者の声や回復できる病気であるというメッセージを発信し、アルコール健康障害対策基本法の趣旨を伝えていきたい。